

工学部 第61回工大祭報告

工学部 工大祭実行委員長 稲福 晃汰



こんにちは。工大祭実行委員会です。この度は第61回工大祭にご参加ください、誠にありがとうございます。今年度11月20日、21日に行われた工大祭は、昨年度に引き続き、対面とオンラインでの開催を融合させたハイブリッド型での大学祭を行うことができました。コロナウイルスの感染状況が不安定であり、数々の大学祭が中止となる状況下にも関わらず、このような形で工大祭を開催できたことをとても嬉しく思います。

ここで、第61回工大祭を振り返らせていただきます。今年度の工大祭のテーマは「kitfes++」となっております。コロナ禍でも工大祭が一步でも動き出すことができるよう願いが込められています。工大祭が開催された2日間では、学内及び第61回工大祭特設ページにて学科展・サークル展を、橋山館にてステージ企画を行いました。ステージ企画は1日目に都道府県クイズと、QTS S(九工大スマブラサークル)の皆さんの協力のもとeスポーツの配信を行いました。また2日目には、カラオケ・絆企画をはじめ、マジシャンの「ピエロのピーちゃん」による本格的なマジックショーや大富豪ゲーム、Brave Crewによるダンスショー等、盛りだくさんな内容となりました。学内の学生は対面で参加できましたが、ステージの様子はYouTubeでライブ配信していました。

今年度は昨年と比べてコロナウイルスの感染状況は不安定であったため、模擬店の出店可否をはじめ、どのような形態で開催できるのかについて話し合いを重ねました。残念ながら模擬店の開催や地域の方をお招きしての大学祭の開催は難しく、昨年度と同じような形態での工大祭を行う運びとなりました。私たちは昨年度先輩方が作り上げてこられた工大祭をもとに、少しでも進んだ形の工大祭を行えるよう、検討しました。その結果、eスポーツの配信や一般の演者の方をお招きしたり、他大学の学生にも出演していただいたりと、昨年度できなかった事を実現することができました。また、学生の来場者や出演者をはじめとした工大祭に関わる方々が安心して大学祭に参加できるよう、PCR検査やガイドラインの作成、LINEbotを用いた工大祭当日の行動管理など、関係者をお交えながら多くのことについて準備を進めました。厳しい情勢のなかで工大祭の開催について前向きに検討してくださったこと、話し合いや準備の際には、学生係や学務課、保健センター等、大学関係の方々には本当に世話になりました。

第61回の工大祭を開催するにあたって、次々と出てくる課題に向き合う時間が多くありました。普段の学生生活の中では経験し得なかったこともあり、自身の成長を感じられました。また、それも周りの支えが多くあつての事だと感じます。昨年度の事もあり、皆が今年こそはと考えるなか、思い描いていた大学祭を開けず悔しい思いをしてしまうこともあつたと思います。様々な思いを持ちながらも、共に準備を進めてくれた実行委員の皆に会えて本当に嬉しく思います。来年度も一筋縄ではいかないかもしれませんが、後輩たちの作り上げる工大祭がとでも楽しみます。

最後になりましたが第61回工大祭を開催するにあたりご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

工大祭実行委員会
 学生会館2階活動室2
 TEL: 093-883-0679
 ホームページ: <https://www.kit-fes-tobata.com/>
 Twitter: @KIT_fes_tobata
 Instagram: kit_fes_tobata



情報工学部 第61回工大祭

情報工学部 工大祭実行委員長 柴 啓仁



令和3年11月20日、21日に第61回工大祭が開催されました。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

第61回の工大祭は、『Kites+』のテーマの下、進歩した工大祭を届けられることを目標に開催いたしました。今回の工大祭もコロナ禍の影響を受け、前回同様オンラインを主とした開催となりました。残念な

がら例年通りの開催は叶いませんでしたが、感染拡大の影響で多くのイベントが中止になる中、感染対策を講じた上で工大祭が無事開催できたこと、大変嬉しく思います。

ここで、工大祭に参加できなかった方もいらつしやると思いますので、振り返らせていただきます。第61回の工大祭は、第60回より充実させることを目指して、1日開催から1日半での開催となりました。例年の工大祭日程に近づいたことで、より多くの企画に取り組むことができました。思います。第61回も、YouTubeを用いたライブ配信を行い、オンラインを活かしたどこからでも楽しめる工大祭を目指して実施しました。ステージでは、ゲーム企画やカラオケ企画、大喜利企画などのステージ企画を中心に、配信も行いました。企画の間には、今年も地元企業の紹介した動画を放映する地元応援企画を行いました。1日目の最後には花火を、2日目の最後にはビンゴ大会を

行いました。目玉企画であることから、これらの企画は特に配信やSNS上で盛り上がりました。YouTube以外では、小中学生を対象とした科学実験教室を開催しました。また、学科展やサークル展などの学内の活動を紹介する企画や、SNSやホームページを用いた謎解き企画や写真コンテストなど新たな企画を行いました。たくさんの方にご参加いただきました。

無事大きなトラブルなく開催できた工大祭でしたが、開催に至るまでには困難や苦労がありました。一昨年の冬頃から新型コロナウイルス感染症が拡大し始め、完全に収束することなく第61回工大祭の時期を迎えました。今回こそは例年通り開催したい思いも強くありましたが、大学

や委員同士で協議を重ねた結果、安全面を考慮した上でオンライン開催を決定しました。第60回が初めてオンラインで開催できたことで、取り組みやすい環境が整っていたと思います。しかし、第61回実行委員の活動は、緊急事態宣言等の処置で対面活動不可能な時期が長く、活動形態や時期に大きく影響を受け、非常に苦労しました。そのような中でも挫けずに、成功に向けて全力を尽くし

てくれた工大祭実行委員のメンバーには本当に感謝しています。望んでいた全てのことは実現できませんでしたが、コロナ禍の中で工大祭が開催できたことを委員の皆には誇りに思っており、私は誇りに思っています。

次回の工大祭がどのような形で開催されるかはまだ確定していませんが、どのような形であれこれからの工大祭も委員一同全力で創り上げますので、楽しんでいただけると幸いです。

最後になりましたが、工大祭を開催するにあたりご協力いただきました皆様方へ、実行委員一同より深く感謝申し上げます。



目玉の打ち上げ花火